

診断京都

No.51
1994年 冬季号



このパンフは(社)中小企業診断協会京都支部が発行しております

京都経済新地図

(題字 橋口前会長筆)



平安建都1200年

桓武天皇が平安京を創建して今年がちょうど1200年に当たる。これを機会に京都の創造的再生をはかり、21世紀の京都を築こうと数多くの記念事業や多彩なイベントが計画されている。100年前の建都1100年にはパビリオンとして平安神宮が建設され、イベントには時代祭が創設された。21世紀の市民に何を残せるか。現代の京都市民の知恵が試されている。

目次

〈京都経済新地図〉 平安建都1200年.....	(1)
〈巻頭言〉 黒崎徳之助・京都支部長.....	(2)
〈インタビュー〉 伊東成晃・京都市中小企業指導所長.....	(3)~(4)
〈講演〉 白岩謙一・神戸国際情報システム社長.....	(5)~(6)
正木 明・大阪管区気象台技術部調査課長.....	(7)
〈研究会〉 西河 豊・京都経済研究所.....	(8)~(9)
泉 博・京都支部常任理事.....	(10)~(11)
〈報告〉 MTフェアに参加.....	(12)
〈支部だより〉.....	(13)~(14)
〈会員のページ〉.....	(15)
〈企業のページ〉.....	(16)



中小企業診断士マーク

☆社団法人中小企業診断協会京都支部は、中小企業診断士で作っている団体で、京都府内の各分野で活躍している約100名の診断士が加入しています。

☆中小企業診断士は、中小企業のマネジメント・コンサルタントとして通産大臣が認定し登録した唯一の国家資格です。診断士が行う企業診断は、経営活動の実態評価や、長期的視野に立った戦略計画の立案・指導を行うなどのほか、行政機関などと提携して地域産業振興にも尽力しています。

巻頭言



お陰様で35年、 更なる発展を目指して

京都支部長 黒崎 徳之助

中小企業診断士の皆さん、ご健勝で新年を迎えられ、先づお祝を申し上げます。

「内平らかにして外成る」との期待を込めて昭和から平成へと時代を変えた日本も、一応経済大国並みに成長を遂げた様でも、株神話から土地神話もすでに崩れ、銀行不倒神話も危ぶまれる今日、複合不況から円高、更に異常気象と深刻さを加えつつあるなか、細川政権による政治改革もやっとその緒につき、新しい土俵と枠組みの中で、税制改革や規制緩和、円高差益還元など、より豊かさゆとりのある生活大国の建設に向け、多くの課題を抱えることとなりました。

この様な動きのなか、診断協会京都支部では、京都府よりの活性化指導事業、京都市からの製造業と商業の「生産性と人件費」調査分析に加え、(財)中小企業振興公社よりの診断業務も4月開始来70件の処理を完了し、更に各中小企業関係機関の研修への講師派遣や、機関紙への執筆投稿など会員の活躍が広がっていることを報告いたしますと共に、全事業が順調に進行していますことを、役員始め会員諸氏のご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

また京都は平安建都1200年の記念事業が展開される年となりますが、京都支部でも創立35周年記念の年となりますので、平成6年9月6日に記念式典を開催したく、京都支部の一その発展のためよろしくお願ひ申し上げます。

インタビュー

厳しい時期にこそ 将来計画を

京都市中小企業指導所長
伊東成晃氏



1937年高知県生まれ。立命館大学法学部を卒業して京都市に入る。文化局文化課、経済局工業係、同染織係などを経て、総務局広報課長、住宅局管理部長、上京区副区長などを歴任。93年4月から現職。

—京都市内の経済の現状をどう見えていますか。

伊東 口を開けば「厳しい」という言葉がとびかっている。何かこう、底で停滞しているような感じだ。経済指標は悪い数字の連続で明るさは見えない。繊維・機械金属・印刷工業等の主要産業がおしなべて不振である。売り上げは伸びず、競争は激しく、親企業からの値下げ要請はきつい。支払手形のサイトも9ヵ月、1年というのも珍しくない。—
—小売業界も元気ありません。

伊東 個人消費が動かないのが一番痛い。だから、商店街ばかりか、観光関連業界もよくなく、自動車販売は振るわない。もともと

個別企業を見ると、工夫してそこそこうまくやっているところもある。経営の巧みさというか、京都の伝統的な特徴を生かして不況を克服している企業も恒間見ることができ、心強く思っている。

気掛りな雇用情勢

—今後の動向をどう見えていますか。

伊東 雇用情勢が一番の懸念材料だ。年末のボーナスは相当厳しかったが、企業が生き残りをかけて人員削減を実行すると、冷え込んでいる消費者心理を一段と委縮させるのではないかと心配している。

(4) 診断京都

—そうした情勢の中で、京都市はどんな中小企業対策を講じておられますか。

伊東 自治体でできる対策には限界があるが、金融を通じての支援など、できることは精一杯やっている。例えば金融政策は一昨年8月に和装不況対策特別融資、11月から経営安定特別融資、昨年1月には緊急経営支援貸し付けを実施した。この間、制度融資の金利引き下げも並行して行い、現在ではおしなべて年3%台の金利水準になっている。

制度融資利用申し込みが殺到

—利用状況はどうですか。

伊東 指導所始まって以来という盛況ぶりを見せている。平成3年度の申し込み3300件弱が平成4年度に6千件を超えた。今年度は9月末までの半年間で3200件近くに達している。

—内容的に特徴はありますか。

伊東 運転資金が70%を超えており、経営内容の悪化を示している。4分の1近くに落ちた設備投資の中では飲食店関係の投資が目立っている。

不況をテコに甘さの克服を

—今年度は平安建都1200年を記念して多彩な行事が予定されています。中小企業者に元気を取り戻してほしいのですが、何か注文はありますか。

伊東 悪い状態はいつまでも続くわけではないが、かといって、いつからよくなると明

言できないのが辛い。経営者をお願いしたいのは、この冬の厳しい時期にこそ将来計画を立ててほしいことだ。バブル期に経営のかなりの面でぜい肉がつき、甘さが生じたことは否定できない。不況は天が与えた試練と受けとめ、歯をくいしばって乗り越えてほしい。

経営に生かしたい生産性調査

—指導所の依頼を受けて、当支部ではこの10年来、市内企業の実態調査をやっています。

伊東 いい仕事を続けてもらい、喜んでいける。生産性の向上こそ、京都市内の企業に欠けている考え方だ。せつかくの資料をもっと経営に役立てるように指導していきたい。

—診断協会京都支部への要望を聞かせて下さい。

伊東 中小企業の振興は行政だけではとても実現できない大きな仕事だ。関係機関との協調が大切である。とりわけプロのコンサルタント集団である診断協会には大きな期待をかけている。先生方の専門知識を京都市の中小企業活性化にいかしてもらえるよう、願っている。

ひとこと 幹部コース一筋に歩いて来たこの人に3年前、転機が訪れた。帰宅途中に脳卒中に見舞われた。幸い発見が早く、後遺症にも悩まされず、普通の元気を取り戻している。好漢、願わくばもっと御身を大切に、京都市の活性化に尽力してほしい。

(船越)

講演



情報化時代のツール 「データベース」

神戸国際情報システム社長

白岩謙一氏

この講演は93年10月9日に中小企業診断協会京都支部が実施した研修会での要旨を編集担当がまとめた。

刻々と推移する社会情勢を的確に把握して機敏に、しかも弾力的な戦略、戦術を立てることが企業経営に求められている。必要な情報収集の手段としてデータベースがある。コンピュータと通信による高速印刷技術を組み合わせた情報収集技術と考えてよい。コンピュータを使うからといって、特別な知識が必要なわけでない。むしろ専門知識のない方が気楽に入れるという妙味がある。

データベースは情報の宝庫

「データベース」とは「コンピュータで検索できるように、収集し、蓄積された情報の集合体」と定義することができる。種類としては、新聞・雑誌記事情報、企業関連情報、科学技術情報、経済・産業情報、人物情報、特許情報など大変多い。国内情報ばかりでない。海外のデータベースにもアクセスでき、

大型のデータベースになると、1976年ぐらいから最新の情報まで、膨大な量が収録されている。

情報の検索はキーワードや分類コードをキーボードに入力することで実行される。得られた情報はパソコンなどの端末機画面に表示されると共に、プリンターに出力される。一次文献が必要であれば、端末機からオンラインで注文すれば、大体4日以内に送ってくれる。データベースは居ながらにして、世界の必要情報を容易に、しかも手早く引き出せ、戦略判断に活用できる。

データベースの使い方

データベースはいろいろな使い方ができる。例えば、過去に逆上って記録を調べることができるので、開発の歴史をたどると未来が読める。私はある自動車メーカーの新車モデ

(6) 診断京都

ルを発表前に予測したが、これはデータベースの力を借りてこそ出来る芸当だ。

データベースの一つにELNETがある。ここでは43の主要新聞の記事と141の雑誌記事が一括検索できる。記事原文をファクシミリで入手も可能だ。従って、新聞や雑誌を読む必要はない。もちろん、切り抜きは無用だ。モーニングレビューを利用すると新聞25紙の朝刊記事が自動的に入手できるなどのサービスがある。

一種類のデータベースを利用するだけでも膨大な情報が極めて敏速に手に入るが、二種、三種のデータベースを重ねて利用できるようになると、経営戦略として活用できる。求めている答がコンピュータから打ち出されてくる感じになる。しかも、この情報は居ながらにしてとれ、客観性は確保されている。

データベースでこんな仕事ができる

何よりも経営戦略、意思決定に必要な業界情報をつかむことができる。ライバル社の動向、進出予定国に関する経済、風土、産業の実態調査は欠かせない。市場開拓のためのマーケティングデータも簡単に得られる。例えばアミューズメントや都市再開発の方向、高齢者市場の将来展望、ヘルスケア産業にかかわる欧米先進国の実態からヒントが得られる。

社会の最新情報から新規プロジェクトや商品開発のイメージを練ることだってできる。

データベースを使いこなすことで可能性は無限に広がる。

プロは事前に時間をかける

データベースを上手に使うにはどうすればよいかとよく問われるが、私のやり方は事前に検討を徹底して行うことにしている。全体の仕事を100とすれば、95から97.8までは事前の準備にかける。効率的に検索するにはどうすればよいか、どういう順序で検索するか、見極め判断のめどをどこに置くかなどを十分に時間をかけて考える。従って、打つのは残りの2%、打ちながら考えない。

世間でやっているのは逆だ。まず打ち、打ちながらあれこれ考えている。中には途中で議論を始めるところもある。費用を考えると改められねばならない。

この外、情報がデータベースに収録されているかどうかを見通しておくことも大切だ。官公庁関係の情報はデータベースからは得られないと見ておいた方がよい。

さらに、好き嫌いの克服も大切だ。好きなデータベースは使いやすいが、偏りのあるアクセスは徒労と考えておいた方がよい。

データベース利用の費用をうんぬんする企業であれば、最初から使わない方がよい。金は使うためにあると思っているが、情報収集のための金を惜しむようなら話は別だ。費用対投資効果の徹底確認を怠ってはならない。

講演



気象情報を活用する

大阪管区气象台技術部調査課長

正木 明氏

93年の気象はかなり異常だったことは確かだ。冷夏と長雨、台風が暮らしと経済に影響し、ビールとエアコン、夏物衣料、レジャー用品の4分野だけで1千億円の減収だったという報道もあった。最も大きな影響を受けたのはコメだ。戦後最悪の不作になり、減反政策が大幅に緩和されることになった。冷夏が94年も続けば深刻なことになる。

近年、気象のリズムが狂っているような印象を持っている。暖冬はすでに7年続いている。変化する期間が長くなっている気がする。こうした経験則から見ても、94年の気象動向が心配だ。

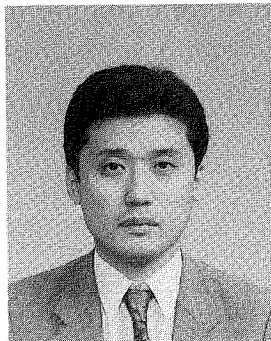
心配な今年の気象動向

気象情報を効果的、多面的に活用するためには、必要な場面に応じて情報を使い分けることが大切だ。長期的な観測データが蓄積されている気候資料は都市計画、工場立地、港湾・鉄道建設など、各種計画の策定段階で利

用されている。予測情報は災害防止や軽減対策に。短時間予報になると、家庭、企業、交通機関など、各方面でいろいろ利用されている。最近、气象台に落雷証明書の発行を求めにくる人が非常に多い。事業所でOA機器がよく使われるようになってからの現象だ。

長期予報の使い方

長期予報は残念ながらまだコンピュータを利用して行うところまで行っていない。膨大な計算をこなさねばならず、現在の能力では週間予報が精一杯というところだ。長期予報は従来からの統計的手法を中心に、新しいデータを補強しながら行っているのが実情だ。従って、長期予報を利用して生産、販売計画を立てるには、季節変動と実績を記録しておき、これに社会環境の変化や消費者の好みの変動を加味して判断するようにすれば、効果的である。



阪急京都沿線の商業

(株)京都経済研究所

西 河 豊

今回の研究発表では京都市西京区及び向日市、長岡京市の1区2市を阪急京都線の沿線地域と規定し調査した。当地域は京都、大阪への優良なベッドタウンとして人口増加を遂げてきた。

地域の商業力を昭和63年と平成3年の商業統計の比較で見ると、商店数は西京区が、1,126店から1,147店と増加しているが、向日市は530店から490店へと7.5%の減少、長岡京市は752店から681店へと9.4%の減少となっている。

(京都府全域では2.8%の減少、京都市は、3.0%の減少)

業種的にみると百貨店・スーパー以外は飲食品小売業等の最寄品系の商店が多くなっている。

小売業の年間販売額は、昭和63年と平成3年の対比では西京区25.5%、向日市28.2%、長岡京市15.5%と順調に増加している。(京都府全域では19.6%、京都市は18.2%の増加)

当地域の有力大型店としては、「西友(桂店、長岡店)」、「ニチイ(向日町店)」、「イズミヤ(長岡店)」、「高島屋(洛西店)」が地域の消費需要を着実に吸収し、堅調な売上げを誇ってきた。

当地域は大手チェーン店、CVS等の参入が比較的少なく、大型店同士、または、大型店と地域商業者が所得階層の高い地域消費者をめぐる、他の沿線上(近鉄沿線、京阪沿線)と比べると比較的緩やかな競争をしてきたといえる。

しかし、近年、国道171号、及び9号沿い

を始めとしてロードサイド型の店舗の進出が目につくようになる等、地域の商業地図も変わりつつある。

当地域にかかる大型店の出店・増床計画をあげると第2種店としては「桂東阪急ビル」「エポック橿原店」がともに本年オープンしたのに加えて「桂坂タウンセンター」の出店計画がある。

また、第1種店では、「西友桂店」の増床の計画、「ニチイ向日町店」の増床の構想がある。

また、先日、新聞紙上で、ダイエーが京都市南区に約2万㎡（うちダイエーが1万6千㎡）の店舗面積で進出してくることが発表された。

当店舗は所在は南区となっているが西京区との境であり、実際はこの阪急沿線の消費者をターゲットとしている。このダイエーの進出が根強い力を持つ阪急沿線上の大型スーパーに対抗し、どれほどの売上げを示すことができるのかが今後の阪急沿線の商業地図に大きな影響を与えるであろう。

加えて、向日市171号線沿いに「トイザら

ス」の出店計画があることも新聞紙上で発表され、大いに注目されるところである。

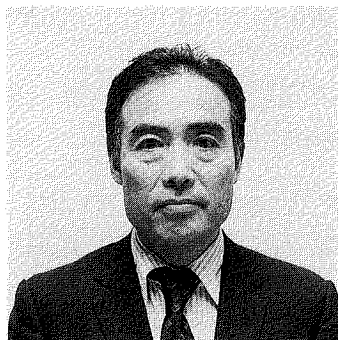
また、当地域以外の計画として、「大丸京都店」の増床（一部完成）、「高島屋京都店」の増床、「近鉄百貨店京都店」の増床、「京都駅商業施設（伊勢丹入店）」の改装計画がある。これにより、京都市中心商業街区である四条河原町周辺、京都駅前ターミナルの商業集積力が強化され、今後の当調査地域から消費の流出が懸念されるところである。

これに対し、今後の阪急沿線の商業の進むべき方向としては、

- ① 阪急の駅の東・西側の一体化、ターミナル化を図り、アミューズメント機能の充実した商業集積を構築すること。
- ② 「商店経営のコンセプト」の明確化、環境整備事業等のハード面での充実を図ること。
- ③ 地域特性を生かしたユニークなイベントを実施し、地域住民と一体となった街づくりを行うこと等が必要であろう。

(9月9日 102回)

研究会



ISO 9000シリーズと中小企業

常任理事

泉 博

ISO（国際標準化機構）は1987年3月、EC各国でバラバラな品質保証システムを統一して、国際規格（ISO9000シリーズ）を制定した。ガットでは国際標準による認証制度を設け、加盟国は相互間に認証しあうことを求めている。ECでは、第三者機関による認証登録制度が急速に進んだ。

日本では、1991年10月、ISO9000シリーズを国内規格として採用、JIS Z9900として制定した。93年10月には「日本品質システム審査登録認定協会」が設立され、ISO9000シリーズの体制整備が進められている。

今なぜISO 9000シリーズなのか

ISO9000シリーズは現在すでに60ヵ国近い国で国家規格として採用されている。イギリ

スでの認証企業は約15,000社、といわれており、その他、フランス、ドイツ、アメリカ、アジアNIES諸国でも急速に増えている。輸出取引でISO9000シリーズの認証が求められるケースが増えていることなどからわが国でもISO9000シリーズを導入する企業が急増。京都の主要企業ではすでに認証を取得した企業や、現在計画中の企業が多い。

ISO9000シリーズは取引のタイプを9001、9002、9003の三つのモデルから、選択することとなっている。9001は設計、調達、製造及び据付けのすべてを生産者が行う場合の規格、9002は「設計が既に確立している場合で製造、据付けを行う」場合の規格、9003は「設計製造方法が長期にわたって確立している場合で最終検査を行う」場合の規格である。

シリーズが求めているもの

品質システムについては、品質方針、組織責任、権限、管理の手順、指図書などについて規定しており、製品の性能や規格を規定するものではない。第三者機関による認証を受けることで企業システムの客観的評価を狙っているが、国内の認定機関は設立されたばかりなので、外国の認定機関が直接、または間接に活動している。認定取得後は定期的な内部監査の実施が求められている。

品質システムを包括的、系統的に文書化することとして、次の事項を求めている。

経営者の責任、品質システム、契約内容の見直し、設計管理、文書管理、購買、購入者による支給品、製品の識別及びトレーサビリティ、工程管理、受入検査及び試験、検査、測定及び試験の装置、検査及び試験の状態、不適合品の管理、是正処置、取扱、保管包装及び引渡し、品質記録、内部品質監査、教育・訓練、付帯サービス、統計的手法。

シリーズ導入のメリット

営業関係では、国際標準規格であるため、海外取引が円滑化する。第三者による認証により、得意先の信頼が得られる。

体質の強化が図れる。品質保証システムの

構築・整備、活性化が進む。監査により、品質保証システムが継続的に改善できる。作業基準、作業手順の整備（文書化）がすすむ。

その他、従業員に対する教育訓練を徹底するため、品質意識が向上する。品質方針を明確化するため、従業員との協調関係ができる。

シリーズ導入上の留意点

品質意識の徹底と品質システムに対する理解と協力を得ること、品質システムは継続し維持、発展させねばならない。チェック工程や検査の記録に工数がかかる。また、認証審査に 200万円から 300万円の費用が必要とされている。

中小企業と ISO9000シリーズ

ISO9000シリーズを導入した親企業では下請企業（発注率の高い仕事については特に）も審査の対象となる。そのため、下請企業としても、それなりの品質管理システムと人材育成が望まれる。シリーズでは検査体制の整備が求められているため、下請企業では検査機器の整備、校正、点検が重要になる。親企業ではシリーズの認証には下請企業の選別・評価が要求事項としてあげられている。下請企業としても十分な体制整備をはかることによって、「ISO」の波を乗り切ることが必要だ。 (11月11日 第104回)

MTフェアに初めて参加



MT&ビジネス交流フェア京都93が8月末に京都府総合見本市会館で開かれた。京都府中小企業振興公社が中心になって隔年に開いている産業見本市で、第4回目の昨年はビジネス交流にも重点を置いた幅広い催しになった。診断協会京都支部にも参加の働き掛けがあり、当支部も振興公社との関係を深め、診断士の社会的地位を高める狙いもあって、一小間を借り切り、ビジネス・クリニック・セ

ンターを開設した。3日間の会期中に3万人を数えた入場者に対し、交替で相談相手をつとめた支部役員は支部のPRに励んだ。

また、第1日目には全国下請企業振興協会会長でもある高橋淑郎診断協会会長が顔を見せた。184社、280小間の展示会場を詳しく視察した後、会館ラウンジで黒崎支部長ら役員と昼食を共にしながら懇談。地元中小企業の現状などについて意見交換した。

京都支部だより

- 平成5.7.13 平成5年度京都府診断指導調整推進会議総会がA V会議室で開催され、黒崎支部長が出席した。
- 7.21 月例経営診断研究会に専門部会を置くことについて協議し、商業部会を発会した。
- 7.29 平成5年度京都地区研修会実行委員会を大同生命京都支社において開催し、研修実行の細部を打ち合わせた。
- 8.1 「診断京都」第50号（平成5年夏期号）を発行し、会員並びに関係先へ配布した。
- 8.3～4 平成5年度中小企業診断士研修会を大同生命京都支社で開催し商業部門88名、工鉱業部門37名、情報部門2名、計127名が受講した。
- 8.26～28 (財)京都府中小企業振興公社など主催の「MT. ビジネス交流フェア京都」が京都市伏見区パルスプラザで開催され経営相談窓口を担当した。
- 9.27 平成5年度近畿ブロック会議が和歌山市「紀の国会館」で開催され、黒崎支部長が出席し、情報交換した。
- 10.5 (財)京都府中小企業振興公社との診断業務に関する懇談会を京都府中小企業会館で開催した。
- 10.5～6 '93「中小企業経営診断シンポジウム」が札幌市「札幌ガーデンパレス」で開催された。
- 10.9 支部研究会を競輪補助事業としてオムロン(株)研修センターで「情報は活かすもの」のテーマにより「情報の戦略的収集と活用展開」を神戸国際情報システム(株)社長 白岩謙一氏に「天気情報を活用する」を大阪管区気象台技術部調査課課長 正木明氏に26名が受講した。
- 10.16 京都商工会議所主催「中小企業振興月間特別講演会」などに参加した。
- 10.20～21 平成5年度全国中小企業診断研究会が秋田市「秋田キャッスルホテル」で開催された。
- 10.20 本部より「変革期における中小企業経営の再構築」調査について(株)三協を品川副支部長担当で報告した。
- 10.29 本年度より、平成5年度「特定中小企業集積に関する調査」の丹後織物(協)を品川副支部長担当で報告書を提出した。
- 11.5 京都市から受託した「生産性と人件費」並びに「販売生産性と人件費」の調査業務を完了し、報告書を提出した。

「経営診断研究会」を月例
(毎月第2木曜日)で開催した。

年月日	回	テ - マ	参加	当番
7. 8	100	京都の商工100年史	20	行侍
8. 12	101	ファッション業界の近況 と卸売業のC. 1	16	岸田
9. 9	102	阪急沿線(京都線)の商業	20	西河
10. 14	103	乗舟事業(保津川下り) の活性化	15	山田
11. 11	104	ISO9000シリーズ と中小企業	17	泉
12. 9	105	材料開発について	16	竹村

＝受賞＝

中小企業基本法施行30周年記念式典が11月16日東京プリンス・ホテルで開かれた。席上、中小企業振興に多大の貢献があった個人・団体の表彰が行われ、京都支部からは黒崎徳之助支部長が通産大臣表彰を受けた。

＝予告＝

平成6年度中小企業診断士研修は8月2日(火)～3日(水)開催の予定です。

〈転入〉

西谷友四郎

〒611 宇治市伊勢田町名木1丁目1-45
にしや診断士・技術士事務所
TEL 0774-43-9162

山下博邦

〒611 宇治市菟道段ノ上13-7
京都経営経理センター
TEL 0774-21-3946

豊部克之

〒615 西京区川島玉頭町75-4
京都銀行本店
TEL 394-5239

〈入会〉

石本徳夫

〒606 左京区北白川仕伏町10-2
自営
TEL 791-6523

〈死亡〉

利藤直弘 5. 7. 31死亡

〈事務所移転〉

成願事務所

〒604 中京区新町通四条上ル
西澤善ビル302号
TEL 212-1600 FAX 313-1955

〈住所変更〉

生田信一

〒601 南区西九条南町1-4
東寺ハイム505号
TEL 682-5977

会員の頁

1994年 新春 謹 賀 新 年

中小企業診断士

(社) 中小企業診断協会京都支部有志

<p>植 木 晃 吉 京都市左京区上高野大明神町16 TEL 711-1674 〒606</p>	<p>品川 弥太男 京都市左京区一乗寺松原町101 TEL 721-4078 〒606</p>	<p>堀 村 清 蔵 京都市下京区西洞院通七条上る TEL 361-4455(代) 〒600</p>
<p>奥 平 恒 巳 京都市西京区大枝西新林町6-15-3 TEL 331-1204 〒610-11</p>	<p>高 木 健 次 京都市北区大將軍西町80 TEL 463-8877 〒603</p>	<p>松 田 幸之助 京都市下京区中堂寺前田町29-1 パインコート五条201号 TEL 341-5233 〒600</p>
<p>片 岡 憲 男 京都市中京区丸太町通衣棚西入 玉植町222 TEL 256-1880(代) 〒604</p>	<p>玉 垣 勲 京都市西京区川島尻堀町31-6 TEL 391-5963 〒615</p>	<p>村 上 薫 長岡京市神足神田8-20 TEL 075-955-0609 〒617</p>
<p>木 津 要 三 京都府八幡市西山足立9-5 TEL 983-3271 〒614</p>	<p>泉 博 京都市左京区下鴨松ノ木町2-7 TEL 312-4629 〒606</p>	<p>村 上 泰 三 京都市下京区大宮松原下る TEL 801-4591 〒600</p>
<p>黒 川 倉 市 京都市北区紫野西野町30 TEL・FAX (075)493-2496 〒603</p>	<p>中 窪 嘉 邦 京都市右京区御室小松野町31の3 TEL 462-7497 〒616</p>	<p>森 川 八十一 京都市北区紫野中十二坊町28-2 TEL 463-6972 〒603</p>
<p>黒 崎 徳 之 助 京都市上京区浄福寺通下立売下る 中務町490-19 TEL 801-0501(代) 〒602</p>	<p>中 野 善 蔵 京都市上京区西日暮通丸太町下 る四丁目802 TEL 811-2750・8732 〒602</p>	<p>山 口 敏 雄 京都市左京区吉田近衛町26の62 TEL 761-1514 〒606</p>
<p>山 崎 忠 夫 京都市中京区御幸町通竹屋町上ル 毘沙門町533 御所倶蘭堂ビル401 TEL 252-6473 〒604</p>	<p>浜 本 勝 一 郎 舞鶴市行永東町10-3 TEL 0773-62-4365 〒625</p>	<p>安 田 徹 京都市上京区中立売油小路西入東 橋詰72-1 TEL 432-2208 〒602</p>
<p>杉 谷 博 京都市右京区太秦御領田町19-12 TEL 864-2970 〒616</p>	<p>船 越 昇 京都府相楽郡精華町祝園1丁田 5-12 TEL 07749-4-3695 〒619-02</p>	<p>和 田 忠 儀 京都市下京区河原町通六条下ル本 塩竈町590 和田ビル TEL 351-7127 〒600</p>

(アイウエオ順)

企業の頁

選ばれたコーヒー豆
力強い“看板”です



小川珈琲株式会社

京都市右京区西京極北庄境町20番地
電話 (075) 313-7333代

滋賀営業所 滋賀県野洲郡野洲町三上神守田498
電話 (07758) 8-1147代

味とやすらぎのおしてなし



料理旅館

お料理

中原
右茶
のんない

- 旅館 京都市中京区東洞院三条南 ☎(075)221-1257
- 吞菜京都店 同上 ☎(075)221-8643
- 吞菜大津店 滋賀県庁合同ビル ☎(0775)21-0860

和装・洋装のブライダルコスチュームをはじめ 魅力的なゲストフォーマルの衣裳を豊富に
取揃えてお待ちしております。



Tokyo・Kyoto・Osaka

- 京都 ■京都市下京区五条通河原町西 TEL075(351)7722代 〒600
- 大阪 ■大阪市北区天神橋3丁目11-16 TEL.06(351)7777代 〒530
- 東京 ■東京都港区南青山3-1-28 TEL.03(402)2772代 〒107
- 東京都中央区銀座6-9-5 ギンザ・コマツ4F TEL.03(564)2277代 〒104



車のことなら
お気軽に!!

●整備 ●販売 ●保検

民間車検工場

中嶋産業株式会社 自動車部

〒603 京都市北区紫竹西北町15の6
(北山通り新大宮西入二筋目北上ル)
電話 (075) 491-8921代

AUTOZAM 紫竹 TEL493-0511

カジュアルあんこショップ TOSHŌCIN



都松庵

京都市中京区堀川三条下ル TEL(075)811-9288代
FAX(075)801-1658

あとがき

不況で明けた94年は中小企業にとっても死
活の年になりそうです。建都1200年は支部
の35周年に当たります。記念行事への先生方の積極的参加を
願います。今号から「研究会」のページを設けました。
研究発表の場に活用下さい。(泉, 船越)

おだんご家族®

京菓子処

三昇堂小倉



●本店/京都市下京区花屋町通壬生川西入薬園町152
TEL(075)351-5923代 FAX(075)351-5899(島原大門前)

診断京都

No.51

1994年1月発行

社団法人 中小企業診断協会京都支部
京都市上京区浄福寺通下立売下る
TEL 075-801-0501
FAX 075-841-2560

印刷所 真美印刷
TEL(075)821-2136